

令和元年度「山形学」講座 第2回目が終了しました！

今年度の「山形学」のテーマは「みやびとあそびの山形」。第2回目は「えがく」と題して、山形美術館副館長の岡部信幸氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の松尾剛次氏をコーディネーターに開催しました。

岡部信幸氏には、第1部で山形美術館設立の経緯と特徴をご説明いただきました。山形美術館は元々は展示施設としてできた美術館であり、現在も県展など広く県民の作品展示の場になっているそうです。同時に、①山形ゆかりの作家を中心とした作品の収蔵、コレクションを増やす活動 ②日本美術においては長谷川コレクション ③フランスの近代美術においては吉野石膏から寄託を受けた印象派の作品 と3つの特徴があるとのこと。特に印象派の作品はピカソ、シャガール、モネ、ルノワールなど非常に優れた作品が多くあり、日本有数、世界的にも誇る所蔵数とのこと。

第2部では、常設展及び開催中の「ロマンティックロシア」展の各々の作品について、エピソードや見所などを詳しく解説していただきました。自由見学では、受講生たちは解説を思い出しながらかじりと作品を鑑賞していました。

また、今回の目玉企画、バックヤード見学も実施しました。小松均の大作「最上川源流」を間近で見ることができ、所蔵作品の管理・保管作業の苦勞等貴重なお話を聞くことができました。

山形の魅力を山形美術館をとおして再発見、再認識できた、大変有意義な現地学習となりました。

## 第2回「えがく」

講師：岡部信幸氏（山形美術館副館長）

コーディネーター：松尾剛次氏（「山形学」企画委員）

場 所：山形美術館

日 時：令和元年8月10日（土）13：30～16：30

参加者：78名



☆令和元年度「山形学」フォーラム及び講座は、全講座終了後に内容をまとめ、講座録“遊学館ボックス”として発刊いたします。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。